



現在・未来の計画にもつながる、 地域の社会＝空間構造の歴史研究

都市経営学部都市経営学科 准教授 小島 見和

キーワード

都市史、建築史、文化遺産、文化的景観、地域文化

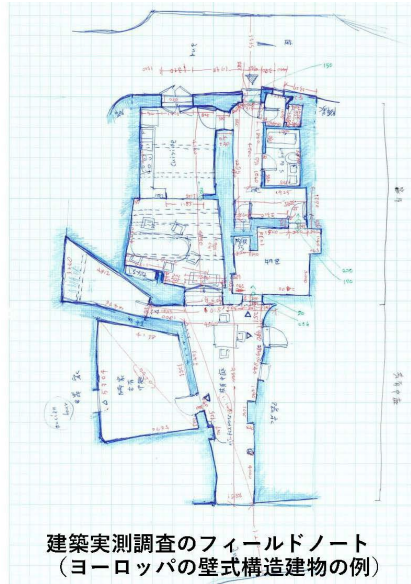
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

学術的専門分野は都市史・建築史です。これまで主に、南フランスやオランダなどの都市と周辺領域の関係の歴史を、フィールドワークと文献史料によって研究してきました。ヨーロッパの文化遺産を活かす都市・地域デザインについての知見をもとに、瀬戸内地域の社会(地域共同体、農林水産業、伝統的手工業などの産業)と、空間(建築物、道や水路などのインフラ、地質や地形など)の関係・構造を読み解く研究に取り組み、多様な地域住民に還元し、地域アイデンティティの再形成、これまで意識されていなかった文化遺産を活かす可能性の認識などを促し、これからの都市・地域デザインに貢献することを目指します。



建築実測調査のフィールドノート
(ヨーロッパの壁式構造建物の例)



小学校のまちづくりクラブ
(大阪府の公立小学校での協力例)

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・空間の文化的価値を分析すること、また今後のデザイン提案の基本情報を得ることを目的とした、建築物・街区全体の実測を含む調査・図面化に協力することが可能です。

例:取り壊しが検討されている旧家の建築調査、商店街の再活性化を考えるための現状調査など

・文化的景観(長い時間をかけて人間活動が自然に手を加えることで形成されてきた景観)の研究に、都市史・建築史の観点から携わることができます。

これまでの連携実績

・大学公開講座の講師

・小学校のまちづくりクラブ(大学生・大学教員・行政職員・小学生が、クラブ活動の一環として地域の環境・歴史・産業などを外に出て調査し、課題を発見し、それを解決するデザインを考える活動)